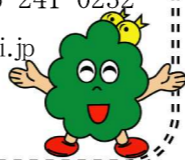


# 笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山  
 熊本市中央区保田窪1丁目 1-33 第2大田ビル1階  
 第23号 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232  
 平成25年 4月 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp  
 http://www.kyouninkai.jp/obiya /



## 見守り事業について

ここ最近高齢者、とりわけ一人暮らしの高齢者の方々については、地域での「孤立」がクローズアップされています。特に平成 22 年夏、全国で所在不明の高齢者のニュースがマスコミを通じて報道されたことはご存じの事と思います。

熊本市でも平成 23 年度より、地域でお住いの 65 歳以上の方々の見守り体制を作っていくことに力を入れています。そして平成 25 年度からは、改めて高齢者の方々のご自宅に、私たち専門の職員や、民生委員さんが出向かせていただくことになりました。

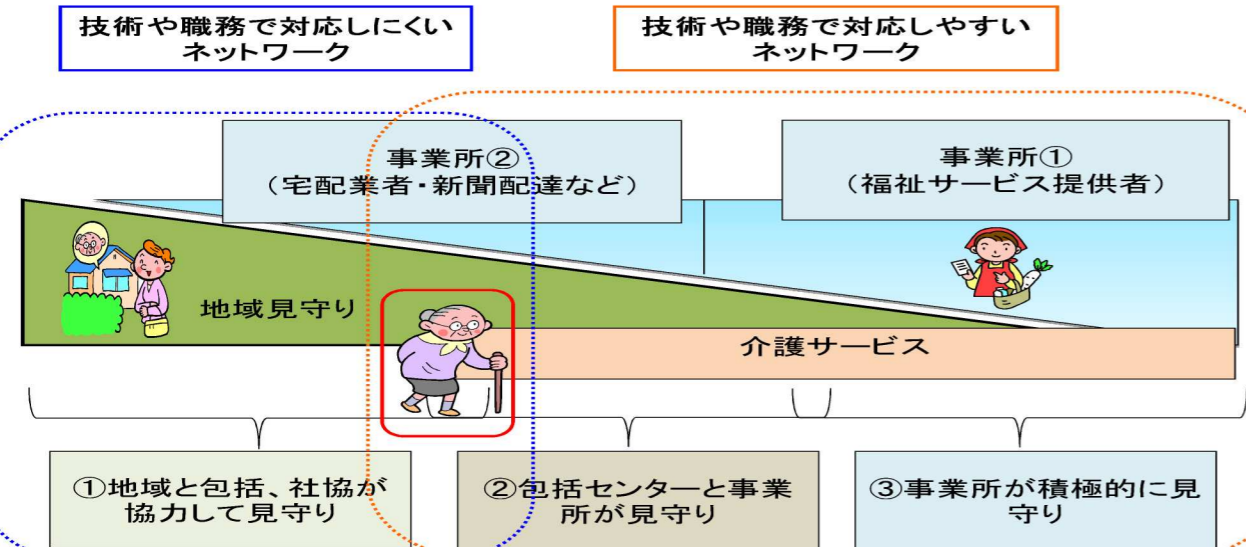
ささえりあ帯山が担当させていただいています、託麻原・帯山・帯山西校区の 65 歳以上の方々は昨年 10 月

現在で、8,000 人を超えました。まさに超高齢社会を迎えているようです。

「孤立」を防止するには、声かけや見守りを通じて高齢者の方と地域とのコミュニケーションづくり、絆づくりに加えてご本人さんの課題に応じた支援が必要になると言われております。そのためには、何より身近な「地域の力」が大きいと思います。これからは行政や地域包括支援センターの支援とあわせ、介護保険サービス事業所、新聞販売店、お弁当や乳酸菌宅配業者などのお力も借りながら、地域が、さりげなく高齢者の方々を見守れるようになればと思います。

(センター長 那須 久史)

### 地域での見守り体制について(案)



出所 NPO熊本まちづくり「熊本地域・元気再生事業」を上田、那須で一部修正

## 帯山校区 ふれあい給食会

二月十三日(水)、帯山地域コミュニティセンターにて「ふれあい給食会」が開催され、私達、ささえりあ帯山職員も参加させて頂きました。始めに、健・熊体操で身体をほぐし次に、「ああ人生に涙あり(水戸黄門の主題歌)」「ふるさと」を包括職員によるトーンチャイムで演奏を致しました。その後、参加者の方全員にご協力頂き、一緒にトーンチャイムを使って演奏を楽しみました。お一人おひとりにトーンチャイムでの演奏をして頂くと同時に、歌も唄い、大盛況のうちに会が終了しました。皆さん、昔とったなんとやらー? で「うちらはどの合唱団かしら」と惚れ惚れするような声も聴かれ、外は寒い日でしたが、会場内はとても暖かく、暖房不要の地球に優しいエコな一日でした。



## 第2弾

### わが校区自慢

集いの場所編

第二回目の校区自慢は、帯山西校区にあります「ふれあいプラザ水前寺」さんのご紹介です。地域の方が、気軽に立ち寄って頂けるような憩いの場所として開所され、今年の三月に満二年を迎えたそうです。熊本市シルバー人材センター会員の方々のボランティアで運営をされており、プラザ一階には、囲碁や将棋が楽しめる部屋や、農産物の販売、生活用品バザー、手づくり作品の制作・展示・販売、そしてちよっと一服できるお抹茶、コーヒー(各百円)が提供される喫茶コーナーがあります。二階には、各種教室(創作折紙、ヨガ、手描き友禅、ビーズ)が開催されており、会議室では会合やサークル活動の場としても利用できるそうです。水前寺競輪場通りであり、地域のほっとできる場所としてこれからも時々、お邪魔させて頂ければと思います。皆様も是非、お立ち寄り下さい。お勧めです★★★



★編集後記★  
 昨年四月に事務所を移転し、一年が過ぎました。担当校区に帯山校区が加わり、様々な活動を通して、地域住民の方と少しずつ顔見知りになる事が出来ました。他の二つの校区(託麻原・帯山西)に関しても、皆様の温かいご支援にて各種の事業を繰り広げることが出来ました。今年度から、職員も増員となり十名体制でのスタートとなります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

藤田 紀子



## 新人紹介

3月から「ささえりあ帯山」に異動になりました、芹川真寿美です。地域の事にはまだ不慣れでご迷惑をおかけすると思いますが、色々教えてください。笑顔で頑張りますのでよろしくお願いいたします。



# 声かけ・通報模擬訓練

前号（笑顔 第二十二号）でお知らせを致しました、託麻原校区 認知症支援ネットワーク活動の心とついであります「**あなたも見守り応援隊ー声かけ・通報模擬訓練**」が三月三日（日）に、託麻原小学校体育館で開催されました。今回で二回目となります認知症支援に関する模擬訓練ですが、昨年度の「発見・声かけ」に加え「保護・通報」の一連の流れを取り組みました。

## 事例①

自宅で転倒し、動けなくなった一人暮らしの高齢者の方を、宅配業者や近隣住民、民生委員等が協力して早めに**発見→連絡→通報**することができた。



## 事例②

徘徊をされている認知症の高齢者の方を、大学生が**発見→保護→通報**し、商店や警察、民生委員等と連携・協力して無事に家族の元へ帰すことができた。



ステージ上で・・・  
寸劇（事例）① デモ  
寸劇（事例）② デモ

寸劇（事例）の  
振り返り

この模擬訓練では、誰にでも起こりえる家庭内での異変や徘徊を想定して、地域での声かけから通報について訓練しました。高齢者への声かけ、支援、そして認知症の方への理解を含めた「**支えあひ地域ひろい**」が実現できるよう、私達ささえりあ帯山の職員も、地域の皆様と一緒に見守りネットワークを作り上げることに尽力いたします。



▲ 最後はみんなで、ハイ！チーズ！！

### 通報



身元確認するも不明のため、警察へ通報。警察より包括へ協力依頼。包括より、支えあひネットワークへ協力依頼。その後、身元判明し家族の元へ。

### 保護



コンビニ（保護所）で一時的保護。氏名・年齢等、身元の確認を行う。

### 声かけ



徘徊されている高齢者に声をかけ、近くのコンビニ（保護所）へ誘導、保護。

寸劇（事例）②の  
「声かけ・通報模擬訓練」開始

## 認知症を知る

### 「第2回 認知症事例検討会」

2月26日、熊本学園大学 14号館にて、**第2回「認知症事例検討会」**を開催致しました。

熊本学園大学社会福祉学部 黒木邦弘先生の司会進行のもと、フォレスト熊本の高野氏の事例「**認知症がある中で、どこまで本人らしい生活を支援できるのか**」をテーマに、民生委員さんや地域の方、居宅、サービス事業所の方々と一緒に話し合いました。地域の方は、「個人情報取り扱いや、隣近所同士の関係の希薄さ」について、居宅やサービス事業所は、「専門職としての仕事の範囲、役割、その仕切りが難しい」など、それぞれの立場で悩んでいることを話し、その内容を知り、共有する事で、互いに困っている事を最小限に出来るという可能性を見出せる機会にもなりました。



## 認知症介護家族を支える

### 「家族のつどい」

2月16日に第1回「**家族のつどい**」を開催致しました。はじめに「**認知症の人と家族の会**」の世話人 村田氏と**認知症ほっとコールセンター・専門相談員** 上村氏から「地域で悩んでいるご家族の力になりたい」と挨拶を頂き、それぞれの家族の思いや訴えを聞くカウンセラー的な役割をして頂きました。介護家族の方からは、現在悩んでいることや困っていること体験談等をお話頂き、単なる座談会ではなく、介護家族と同じ境遇にある人たちが交流し、親睦を深める事で話せる相手がいると感じていただける「場」、一方、ボランティアの方々には、事例紹介や他機関との連携の重要性など、サポートする側の気づきと課題を捉えて頂く「場」となりました。



## 認知症を見守る

### 「帯山西校区ボランティア養成講座」

3月6日（水）に、帯山西校区社会福祉協議会主催のもと、帯山西校区コミュニティセンターにてボランティア養成講座が行われました。（株）くまもと健康支援研究所 社長 松尾洋氏を講師とし、「**みんなで取り組む介護予防**」をテーマにお話されました。介護予防するためには、地域でどのような取り組みをするのか？を「山鹿市のショッピングセンター」や「植木町での取り組み」を参考に、『**高齢者自身が中の役割（自分でやれることは自分でやる）と、外の役割（サロン等の地域活動に参加したり、役員をする）**』をすることが予防に繋がり、それと同時に社会的支援ネットワークの確保も大切です』と話されました。

